

4. 信州大学 全学横断特別教育プログラム ローカル・イノベーター養成コース 学部・学年を跨いだ「地方創新」人材の育成

実施主体	国立大学法人 信州大学
学部学科等	(全学横断特別教育プログラム)
所在地	長野県松本市旭 3-1-1
定員	各年度 20 名以内
期間	1 年次後期～3 年次前期
プログラム設置	2017 年 4 月

4.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

信州大学は、文系・理系をあわせもつ総合大学であり、自治体や地元企業との産学官連携の多さや、市民向けの公開講座・シンポジウムの実績、地域のボランティア等で活躍する学生の活動など、地域貢献においても高く評価されている大学である。一方、県外からの進学者が 7 割以上を占めることや、2 年生以降はキャンパスが長野県内で分散してしまうことなどから、学部横断的な取組や、長野県に対する理解を深める取組を行う必要性が学内で認識されていた。

そこで 2017 年より全学横断特別教育プログラム「ローカル・イノベーター養成コース」を設置した。これは、ローカル(地域)資源を活かし、次世代の消費スタイルを創出するような革新的な取り組みを創出できる人材の育成を、少数精鋭で進めるものである。地方創生を加速するサービス産業(飲食、宿泊、観光業、公共・行政サービス等分野)等の担い手を育成するため、イノベーション・マインドやスキルと同時に、リサーチ・リテラシー、知財・法制知識、プロジェクト・マネジメント能力を育てるためのコースである。

(2) 実施体制

信州大学と、地域の自治体(市町村)、経済団体、県内外の大中小企業、地域コミュニティ、地域の活性化人材等との協働により運営している。

(3) 活用している予算等

平成 29 年度経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」を活用してコースを開設した。

その他、信州大学では地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）にて「信州を未来につなぐ、人材育成と課題解決拠点『信州アカデミア』」や、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）にて「地域ニーズで就業力と地域定着志向と成長力を高めるキャリア教育」の事業が採択されている。

4.2. カリキュラム概要

（1） カリキュラムのねらい・目的

ローカル・イノベーター養成コースでは、各学部で提供するカリキュラムに追加する形で全学横断特別教育プログラムとして、地域社会の中での実践を通じたプログラムを提供する。

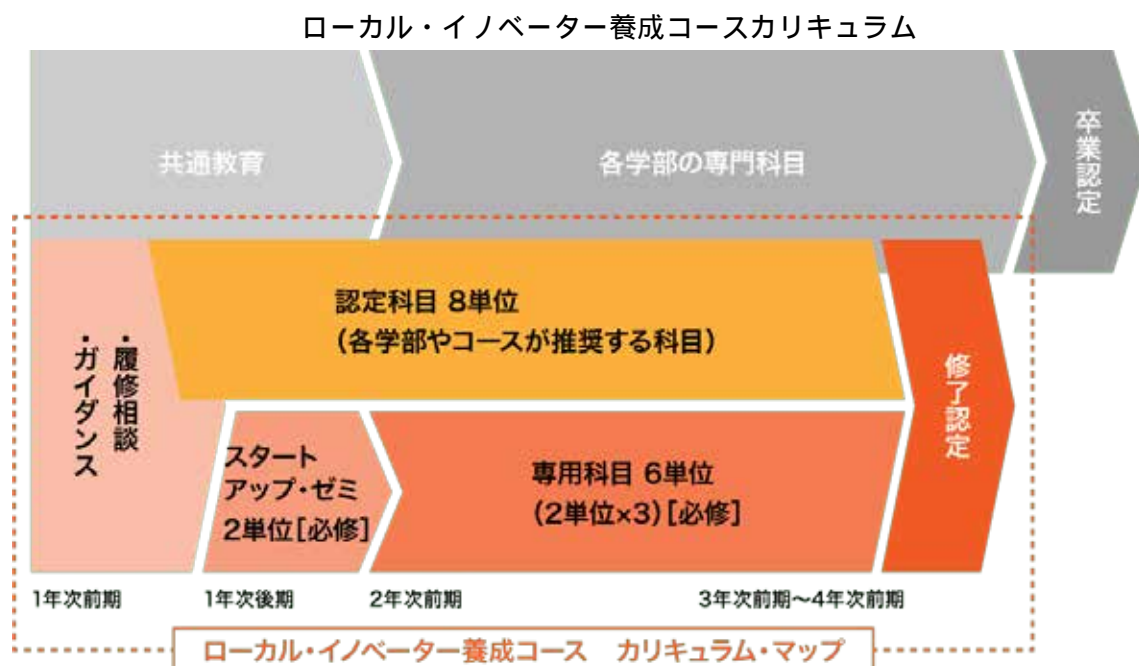
（2） カリキュラム実施背景

地球環境マネジメント，地域社会やグローバル社会の未来を創造するための実践力を持った高度キャリア人材の育成を目的としてコースを設置し、カリキュラムを策定した。

（3） カリキュラム期間

ローカル・イノベーター養成コースは 4 年制の学部生を対象として、1 年次後期から 3 年次前期までを通じて、全 16 単位を取得することを要件としている。

(4) カリキュラム構成





出典) 信州大学 WEB サイト (<http://www.shinshu-u.ac.jp/project/lid/howToLearn.html>)

4.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

ローカル・イノベーター養成コースでは、地域の現場における実践的な教育を実施している。

講義名	概要
スタートアップ・ゼミ	<p>地域産業の様々な現場を訪問し、地域の問題の現場を自らの目で確認し、当事者から生の声を聞き、対話やグループワークを通してアクション・リサーチの基本的な流れを体得する。</p> <p>また、地元の市長や日本を代表するような企業の社長、地域で活躍する方を招聘した講義を行う。</p> <p>地域ブランド実践ゼミ、 課題解決実践ゼミ、 キャリアデザイン実践ゼミが用意されており、ゼミを一つ選択する。</p>

	
イノベーション・リテラシー	<p>夏季休暇中に集中講義形式で、様々な統計データ（RESAS等）の読み解き方、データ分析や表現（プレゼンテーション）のための基本的なリサーチ・リテラシーを学ぶ。インタビュー調査等の手法を学び質的に深い情報を引き出すトレーニングや、アイデアを創出するワークショップ手法等を実践的に学習する。</p>
リアル・プロジェクト・マネジメント	<p>学生が主体となって、「ローカル・イノベーション・フォーラム（仮称）」の企画・運営を実践する。会場確保から基調講演者の調整、進行台本等の作成、チームメンバーの適切な役割分担や協働のマネジメント等を学生が主体となって実施することにより、プロジェクトマネジメントをOJT方式で体験する。</p> 
課題解決インターンシップ	<p>地域企業や行政、地域団体等の現場へのインターンシップを実施する。地域や組織が抱える問題の分析から課題の設定を行い、限られた時間や条件の中で人々と協力しながら課題解決の実践に取り組み、地域からの評価を受ける。</p>

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

信州大学では、1年生が所属する全学教育機構による共通教育が用意されており、様々な講義を選択することが可能である。その中でクールジャパン推進に資する学問

的教育としては、以下のような講義があり、これらはローカル・イノベーター養成コースの認定科目となっている。

講義名	概要
地域活性化システム論	地域・社会とのコラボレーション（協働）により、自治体の職員、メディア関係者、農林業従事者、大学の研究者などの課題に取り組む様々な人々に話題を提供してもらうことで、実際に地域・社会で起きているリアル・プロブレム（現実課題）を扱い、アクション・リサーチ（理論と実践の循環による研究手法）の基礎を習得する。
シルシル信知るゼミ	「松本」「長野」「信州」と呼ばれる土地や風土に対する誇りと愛情を認識するため、様々な地域の知的文化資産・施設等と連携し、フィールド学習も含めて実践的に学ぶ。
山国信州の風土とくらし （風土の中の衣食住）	信州大学が立地する「信州」のもつ風土とそこにくらす人々の生活のありようを知ることを通して、信州に暮らす信州大学生自らの生活の充実を目指す。そのために、信州各地の特色を「衣食住」の視点で探る。発展として、この授業で得た知識をもとに、信州各地に出かけ、信州のもつすばらしい風土性を体感できるようになることを目指す。
信州農学概論	信州の農業、林業、畜産業、醸造業について、代表的・具体的な事例を中心に解説する。また、伝統的な農林業や食文化、ならびに食品製造の分野、さらに信州の自然環境や災害についても学習する。
ものづくり入門ゼミ	盆地ごとに独自の産業形成の歴史がある長野県の特性を踏まえ、展示会見学や工場見学等の体験や、ものづくり方法に関する調査を行い、ものづくりを通じた企業の社会的使命を理解する。

(3) 法制度等に関する教育

全学教育機構では、以下のように行政に関する講義や法務に関する講義などが行われており、これらはローカル・イノベーター養成コースの認定科目となっている。

講義名	概要
行政実務	国・自治体の機関で行政に携わる幹部・中堅職員をゲスト講師として招き、各機関の業務の概要やそれぞれの抱える行政上の課題についての講義を行う。
現代法務	現代社会を支える法制度やその運用について、実際に実務に携わっている複数名の実務家が各法分野ごとに講義をする。

【参考文献】

- Y 信州大学ローカル・イノベーター養成コース WEB サイト
<http://www.shinshu-u.ac.jp/project/lid/index.html>
- Y 経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業 WEB サイト
<https://www.service-jinzai.go.jp/>
- Y ローカル・イノベーター養成コース パンフレット

5. 新潟薬科大学 生命産業創造学科

地域活性化に資する商品開発を学ぶ

実施主体	学校法人 新潟科学技術学園
学部学科等	応用生命科学部 生命産業創造学科
所在地	新潟市秋葉区東島 265 番地 1
定員	60 名 / 年 (平成 30 年度)
期間	4 年制
学科設置	2015 年 4 月

5.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

新潟薬科大学は、薬学部、応用生命科学部を持つ大学であり、生命産業創造学科は 2015 年 4 月に応用生命科学部に設置された。生命産業創造学科では、社会や食品・環境ビジネスの場で通用する能力を身に付け、生命産業という観点から地域・国家の食・環境に関する諸問題を「事業の視点で解決する」人材を育成することを目指している。

(2) 実施体制

学科で実施するフィールドワークや授業では、地元商店街や企業の経営者、農家等との連携体制を構築している。

5.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

生命産業創造学科では、教育目標として、「食品、農環境等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画、開発、経営に優れた専門人材を育成する」こととしている。また、大学で教育する 2 大分野として、「社会・ビジネスの場で通用する能力」(実践知、洞察力、共有力、学習力、表現力、共感力)と、「生命産業分野で通用する能力」(業界応用知、業界基礎知)を掲げている。

(2) カリキュラム実施背景

新潟薬科大学は、薬学部や応用生命科学部など理系学部中心の大学であったが、国や新潟県が進める農業の6次産業化や、新潟市が「食産業 NO1 都市」を目指す「ニューフードバレープロジェクト」に対応した、フードデザインの普及・実践、ブランド構築、農商工連携と6次産業化の推進、環境に配慮した循環型社会を目指す食品リサイクルの推進などを担う「企画・開発・経営」の専門人材（プロデューサー）が必要とされていることを背景に、本カリキュラムを作成・実施している。

(3) カリキュラム期間

生命産業創造学科は4年制の学科であり、修士課程・博士課程の設置はない。

(4) カリキュラム構成

カリキュラム構成は以下のとおり。



学科	1年	2年	3年	4年
教養科目 健康 管理	英語I・II 1年次セミナー スタートアップセミナー	英語III・IV	英語V・VI	
	基礎科学実験I・II 地域活性化システム論 学習論 ITリテラシー基礎・応用 地域活性化フィールドワークI コンビニエンスストア論 自然共生論 生命産業に関わる情報システム学	食品管理論 歴史・風土から見た食環境 中食・外食論 食品科学概論 ブランド構築論 産業経営管理論 生命産業のビジネス論 生命産業経済学 情報収集論 食品開発論 生命産業に関わる法学 環境科学概論	社会調査論 論理的思考論 産業プロデューサー論 レギュラトリーサイエンス 産業マーケティング論 地域活性化フィールドワークII	卒業研究
教養科目 確率と統計 歴史学 生命倫理 スポーツ 科学技術論 法学 キャリア形成実践演習	化学 生物学 確率と統計 歴史学 生命倫理 スポーツ 科学技術論 法学 キャリア形成実践演習	中国語I・II 韓国語I・II 職業とキャリア形成I キャリア形成実践演習	職業とキャリア形成II キャリア形成実践演習	
	コミュニケーション論 1次産業論	食文化論 2次産業論 3次産業論 6次産業化論 プレゼンテーション論 環境汚染論 生命産業情報論	低炭素論 食品製造論 環境技術論 産業プロジェクト管理論 生命産業デザイン論 情報共有論 生命産業に関わるコンサルティング論 知的財産論 リサイクル論 食品香粧学 スマートシティ論 健康食品論	

出典)新潟薬科大学 WEB サイト(<http://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/cr-curriculum/>)

5.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

生命産業創造学科では、地域の企業や農家、デザイナーなどと連携したプログラムを実施している。また、課外活動としても地域活性化、学生の学び、企業との連携などを目的として、地元のコメを使った甘酒作りから、東京の百貨店における販売までを行う活動を実施している。

講義名	概要
地域活性化フィールドワーク	<p>地元の商店街など、地域産業の活性化について学生が主体的に考え、商店の活性化の活動に移し、行動の中から学ぶことを目的としたフィールドワークを行う。学生がグループを構成し、各グループが地元の商店街や企業などを定期的に訪問し、ホームページ制作や広報活動の提案などについて経営者と共に検討する実践的な講義を行う。</p> 
地域活性化システム論	<p>本講義では食・農・環境などに関連したテーマを用いて地域活性化の取組を中心に解説する。地域活性化ビジネスゲームや農村におけるフィールドワークを実施する。また、映画、音楽、デザイン、美術、伝統芸能、観光、移住等幅広い切り口での地域活性化を学ぶ。</p> 
1次産業論	<p>1次産業の業界構造、現在の課題、産業従事者の特徴、政策による支援、課題解決の方向性など、業界の最新の状況について</p>

	て講義する。また2回にわたり農場を訪問し、経営者の抱える課題や今後の展望について理解する。
--	---

課外活動（甘酒製造～東京都内百貨店における販売）の様子



出典)新潟薬科大学提供

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

講義名	概要
2次産業論	新潟県の地場産業を支える製造業(ものづくり)について、その産業の生い立ちから現在までの変遷の歴史、困難な時期の社会背景を説明し、新潟県を代表する製造業の基本的な産業構造を講義する。
3次産業論	日本のサービス産業の競争力と業界を盛り上げている取組みや仕組みを実践に即して講義する。
6次産業化論	世界的な競争や人口減少による農業の転換の時代を迎えた農業生産の付加価値化の視点から、また多様化する消費者ニーズ、中食・外食やコンビニなど急激に変化する食品市場の変化の視点から、農業県であり食品産業の盛んな新潟県の強みを活かした農業の6次産業の展望と構想について講義する。
生命産業デザイン論	同じ商品でも、デザインの違いにより販売状況が異なる現状を示し、デザインの必要性和効果的なデザインについて学び、市場においてデザインの力を積極的に活用するプロデュース力を身につける方法を解説する。特に、デザイナーと連携して商品特性に向けたデザインを提案する能力を身につける学習を行う。
ブランド構築論	現代のブランドは「主観的な体験の豊かさ」を共有する代名

	<p>詞になっている。グローバル化であらゆるものがコモディティ化する中、「体験をデザインする」ことが現代的なブランド構築であることを指導する。</p> <p>またブランド構築は、複数のケーススタディを用いて論証していくが、それら事例は新潟県内に限る。それによって最新のブランドづくりは自分たちの住む地域の中小企業でも可能であるという事実を説明する。</p>
--	--

(3) 法制度等に関する教育

根幹となっている食品産業等についての法制度に関する教育機会を用意しており、この中で輸出に必要な知識についての教育も行っている。

講義名	概要
生命産業に関わる法学	食品産業やバイオ関連産業、環境関連産業などに関連する法律、規制、指針などについて説明する。輸出に必要な外国の法律や国際的な規格についても講義する。

(4) 海外に通じるデザイン・文化理解等の実践的教育

食文化論の中で、和食、和菓子、新潟の食、発酵と醸造などについて学ぶ。また、日本と韓国、中国の食文化の比較や、アセアン、アメリカ、フランスなどの食文化についても学ぶ授業を展開している。

講義名	概要
食文化論	海外の方々にも和食文化の素晴らしさを語れる人材となる。更には、新潟の食文化についても語れる人材となる。

【参考文献】

- Y 新潟薬科大学生命産業創造学科 WEB サイト
<http://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/cr-curriculum/>

6. 近畿大学・JTB 総合研究所

観光地経営を担う日本版 DMO の人材育成プログラム事業

実施主体	学校法人 近畿大学 株式会社 JTB 総合研究所
学部学科等	経営学部 商学科（高橋 一夫教授）
所在地	大阪府東大阪市小若江 3-4-1 東京都港区芝 3 丁目 2 3-1 階, 12 セレスティン芝三井ビルディング
定員	120 名（予定であるため変化する可能性もある）
期間	-
事業開始年度	観光地経営を担う日本版 DMO の人材育成プログラム事業（平成 28 年度～）

6.1. 学校・学科概要

(1) サービス経営人材育成事業の概要（経済産業省）

大学等（短期大学、専門職大学院、大学院を含む）が、サービス産業界（主にサービス事業者）と連携し、サービス産業の次代の経営者やマネジメント人材（以下「サービス経営人材」という。）を目指す学生や社会人を対象とした実践的かつ専門性を有する教育プログラム（サービス経営人材育成プログラム）の開発、及び・実証を行う取組への支援を行う。

本事業で開発された教育プログラムが大学等の教育課程に反映され、サービス経営人材を目指す学生や社会人がこれを学び、実践的かつ専門的な知識・能力を修得することで、サービス産業における新たなイノベーションを創出しうるサービス産業のマネジメントに特化したサービス経営人材の育成を目指す。

(2) 開発する教育プログラムの概要（観光地経営を担う日本版 DMO の人材育成プログラム事業）

欧米では、行政と民間事業者が観光振興を目的として地域ぐるみの活動をおこなう DMO を組成し、デスクティネーション・マーケティングを実践している。日本でも創生総合戦略に示された日本版 DMO の構築を進める動きが拡がりつつあるが、これらを担う観光地経営の専門人材を育成する。

具体的には、DMO の経営・中核人材育成を想定し、社会人向けに 20 科目（28 年度 12、29 年度 8 科目）を開発し、1 科目あたり 15 コマの教育を行うプログラムを開発する。マーケティング、経営管理の理論、調査手法スキル、観光地域ケース演習などを通じ、理論を超える実践優位、状況を切り開く闊達な精神を学ぶ。

（3） コンソーシアム・実施体制

DMO、DMO を組成した自治体、観光企業 14 社とコンソーシアムを組成する。JTB 総研をコーディネータとし、せとうち DMO、東大阪 DMO、田辺市熊野 DMO など各地の DMO の実践をプログラムに活かす。

（4） 活用している予算等

平成 29 年度経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」（プログラム開発の強化・効率化、サービス経営人材育成に関する横展開及び効果検証等調査業務）である。

6.2. カリキュラム概要

（1） カリキュラムのねらい・目的

（再掲）欧米では、行政と民間事業者が観光振興を目的として地域ぐるみの活動をおこなう DMO を組成し、デスティネーション・マーケティングを実践している。日本でも創生総合戦略に示された日本版 DMO の構築を進める動きが拡がりつつあるが、これらを担う観光地経営の専門人材を育成する。

（2） カリキュラム実施背景

2016 年に近畿大学が経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」に応募。「観光地経営を担う日本版 DMO の人材育成プログラム事業」が採択されたことがプログラム作成のきっかけである。

2017 年度は、株式会社 JTB 総合研究所をコーディネータとして、演習型（実践型）を中心とした新規 8 科目を開発した。そして、2016 年に開発した 12 科目を含めた合計 20 科目を「DMO に必要な 3 つのマネジメント」として体系化した。

また、複数の地域で当プログラム内容を活用した DMO 中核人材育成研修を実施すると共に、プログラムの普及にむけたモニター講座（東京・大阪）を実施した。

更に、Edtec を活用した遠隔地教育プログラムにむけた協議を開始すると共に、ミネルバ大学へのヒアリングを行った。

(3) カリキュラム期間

社会人コースとして数か月間で実施する予定であるが、対象者の状況によりカスタマイズをして提供することも予定している。

社会人を対象に2年間で実施する予定であるが、対象者の状況により数か月で実施できるようにカスタマイズして提供することも予定している。また、教育とテクノロジーの融合による新しい教育スタイル (EdTec) を展開することも検討しており、これが可能となれば、夜間の講座を設ける可能性もある。

(4) カリキュラム構成

平成28年度は、DMO運営に必要なニーズの高い知識・理論とスキルを中心に12科目(1科目あたり15コマ)のプログラムを開発し、教材としてパワーポイントスライドを約4200枚作成した。パウポのノート欄に解説内容を書き込み、大学教員なら解説できるように汎用性をもたせている。平成29年度には演習系の科目を中心に8科目を開発し、講義から演習までのカリキュラム構成を用意した。

6.3. カリキュラムの特徴

(1) DMO人材の育成

DMOによるマーケティングマネジメントに関する科目

講義名	概要
観光地マーケティング	STP戦略の作成、インバウンドに向けたツーリズム開発、経験価値マーケティング等
地域ブランドのマネジメント	地域ブランディングのプロセス、地域ブランドのコミュニケーションデザイン、地域ブランディングにおけるリポジショニング等
マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチの基本、主な分析手法(相関分析、回帰分析、因子分析、クラスター分析)、調査票の作成、RESAS(地域経済分析システム)等
デザインシンキング	市場を創る思考法、観光地におけるデザイン思考、地方創生におけるデザイン思考等
デジタルマーケティング	マーケティングを実施するディレクターとして、専門担当者に対して指示を出す為に必要となるデジタルマーケティングの知識を習得する。

プロモーション・マネジメント持論	マネジメントの立場で必要となるプロモーションの実務的な知識やスキルを身につける。観光プロモーション戦略の立案方法を理解する。
国際観光事業持論	グローバル市場と観光産業の経営、日本の宿泊施設において、訪日外国人旅行者への対応に必要な要素は何かを理解する。新たな宿泊業態（民泊や農家民宿）のインバウンド活用について考える。
DMS 演習	実務としての DMS を理解するとともに、DMO 内での導入～活用方法を習得する。

DMO の組織マネジメントに関する科目

講義名	概要
マネジメントとリーダーシップ	仕事の効率を高めるモチベーション、組織の目標へ導くリーダーの資質と行動、DMO の人的資源管理プロセス、人材育成とコーチング等
マネジメントとリーダーシップ	DMO の組織運営上の課題と組織デザイン、知識マネジメントと組織学習、DMO のガバナンス、組織のリスクマネジメントと内部統制等
財務(もうかる DMO とは)	損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー表、財務分析等
サービスマネジメント	観光産業と観光事業、サービス提供者と顧客の接点、需要と供給と収益のマネジメント等
DMO マネージャー実務演習	「欧米先進 DMO」や「国内先進 DMO」のマネージャー、ディレクターが行っている仕事の事例を示し、多岐にわたる現場でのプロデュース業務内容や、業務を進めていく上でのポイントを学び、「自地域に置き換えて整理・体系化」する。

DMO エリアマネジメントに関する科目

講義名	概要
観光事業とまちづくり	観光産業と観光事業、観光まちづくりを進めるための財源 入浴税の超過税 宿泊税 負担金（TID、BID） 自主事業 補助金・助成金、BID と隣接の事例、都市計画 景観、規制と関連法律等
市場のマーケティングマネジメント	観光地マーケティングのマネジメント特性、観光地マーケティングのプロセス等

地域の合意形成とコラボレーション	利害関係者管理、合意形成のためのスキル、プレゼンテーション、コミュニケーション等
フィールドワーク	観光資源となり得る「地域資源」の発掘方法、地域の観光の現状、観光客のニーズや評価、地域に対する住民の認識を対象とした調査方法等
観光地理学持論	観光開発・観光振興に伴う負の課題に向き合う、地域に対するまなざしの変化、地域的差異の理解等
観光地域ケース演習	ケーススタディとする地域のフィールドワークを通じて、観光地域における問題点を捉える能力を養う。
観光プロジェクト演習	具体的に地域を設定し、観光資源・コンテンツの抽出、観光コンセプトの開発、課題発見と解決、KPIの設定などを演習する。

プログラムの普及にむけたモニター講座の実施

講義名	概要
DMO マネジメント人材育成モニター講座のご案内(東京会場・大阪会場)	<p>1日目：第一部基調講座と意見交換 「DMO 観光地経営のイノベーション ～成功する DMO の組織マネジメント・財源・人材～」 講師 近畿大学経営学部教授 高橋一夫</p> <p>2日目：第二部 DMO 人材育成プログラムの一例紹介 「地域が稼げるデジタル&WEB マーケティング講座」 講師 近畿大学経営学部講師 名淵浩史</p>

【参考文献】

- Y 経済産業省「サービス経営人材育成事業」WEBサイト
<https://www.service-jinzai.go.jp/univ16.html>
- Y 近畿大学 WEB サイト
<http://research.kindai.ac.jp/profile/ja.ed36fdc3ae95c0ff.html>
- Y 観光地経営を担う日本版 DMO の人材育成プログラム事業

7. 金沢大学 人間社会学域地域創造学類 観光学・文化継承コース

インバウンド観光ビジネス創出人材の育成

実施主体	国立大学法人 金沢大学
学部学科等	人間社会学域地域創造学類 観光学・文化継承コース
所在地	石川県金沢市角間町
定員	地域創造学類 4 コース計 90 名 / 年 (平成 30 年度)
期間	4 年制
コース設置	2018 年 4 月

7.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

金沢大学は、文系・理系・医薬系をあわせもつ総合大学であり、地域創造学類は 2008 年 4 月にそれぞれの地域が持つ多様性を活かしながら地域が直面する課題に実践的に対応できる地域づくりのリーダーを育成することを目的に設置された。地域創造学類には、福祉マネジメントコース、環境共生コース、地域プランニングコース、健康スポーツコースが設置されていたが、2018 年 4 月からは健康スポーツコースの学生募集が停止され、新たに「観光学・文化継承コース」が設置されることとなった。

(2) 実施体制

金沢大学、石川県、金沢市、アウル株式会社、こみんぐるプロジェクト、ISICO・石川県産業創出機構、ILAC・いしかわ就職・定住総合サポートセンター、イフガオ GIAHS (世界農業遺産) 支援協議会、能登キャンパス構想推進協議会、NPO 法人角間里山みらい、金沢市観光協会、株式会社金沢商業活性化センターなどが協力し、カリキュラムを開発した。

(3) 活用している予算等

平成 29 年度に、経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」を活用した。

7.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

観光学・文化継承コースでは学士課程の学生を対象に、地域の文化資源を深く理解するとともに、海外ニーズの把握や ICT を活用したサービスの提供など、地域性と国際感覚を習得できる新しいインバウンド創造の教育カリキュラムにより、観光分野の専門人材を養成することを目的としている。特に、金沢大学として 2014 年度から取り組んでいるスーパーグローバル大学の資源を活かし、インバウンド促進に向けた海外連携も含め、産学官連携のインバウンド推進の観光ガイド・インターンシップ教育を行うことを予定している。

(2) カリキュラム実施背景

社会的に地域づくりに果たす観光の役割が重要視されるようになってきている中で、特に日本有数の観光名所である金沢という地域性を活かして、持続可能な観光を構想できる人材育成が必要となったためコースを設置し、地域の関係者と共にカリキュラムを開発した。

(3) カリキュラム期間

観光学・文化継承コースは 4 年制の学部・学科に設置されたコースである。修士博士前期課程の地域創造学専攻、博士後期課程の人間社会環境学専攻への連続性を持っている。

(4) カリキュラム構成

観光学・文化継承コースでは「地域文化論」や「地域経営論」、「コミュニティ・デザイン論」の 3 つの専門領域における体系的な科目とともに、観光に関連する幅広い領域にわたる講義・演習・実習科目を用意している。さらに実践的に観光の現場を学ぶため、文化や伝統、観光資源が豊富な金沢など周辺地域でのフィールドワークを重ね、理論と実践をバランスよく学べるカリキュラムを構成している。

地域創造学類カリキュラム

地域創造学類カリキュラムツリー(平成29年度入学者用)

	学域GS科目	学域GS専修科目	学域共通科目	福祉マネジメントについて学ぶ 為の科目	環境再生について学ぶ為の科目	地域プランニングについて学ぶ 為の科目	健康スポーツについて学ぶ為 の科目	演習科目・論文 指導	実習・インターシップ科目	地域推進プログラム (履修外)科目	
4年後期		学域GS専修 科目1-Ⅱ		社会福祉総論Ⅰ、Ⅱ 社会保障論Ⅰ、Ⅱ 地域福祉Ⅰ、Ⅱ 高齢者福祉論 介護福祉論 障害者福祉論 児童福祉論 公的扶助論 福祉社会学Ⅰ、Ⅱ 医療社会学Ⅰ、Ⅱ 公共社会学Ⅰ、Ⅱ 福祉国家論Ⅰ、Ⅱ 社会政策論Ⅰ～Ⅳ 健康福祉論Ⅰ～Ⅱ 健康福祉施設経営論 労使関係論 医療福祉論 心理学概論 社会学 社会学論 社会調査論 社会福祉行政論 福祉計画論 雇用政策論 権利保護と成年後見制度 更生保護論 福祉と法Ⅰ、Ⅱ	自然環境の再生とその動 向Ⅰ、Ⅱ 環境学習・市民活動Ⅰ、Ⅱ 環境行政と関係法令Ⅰ、Ⅱ 自然環境と社会Ⅰ、Ⅱ 資源運用・管理論 環境思想Ⅰ、Ⅱ 農村計画論Ⅰ、Ⅱ 環境と農村Ⅰ、Ⅱ 環境教育論Ⅰ、Ⅱ 環境経済論Ⅰ、Ⅱ 農業経営論Ⅰ、Ⅱ 環境政策論Ⅰ、Ⅱ 農業政策論Ⅰ、Ⅱ 防災・減災と環境学 流通・消費論 地球資源活用論 社会環境論Ⅰ、Ⅱ 環境コミュニケーション論 Ⅰ、Ⅱ	地域学概論Ⅰ、Ⅱ 地域計画論Ⅰ、Ⅱ 住環境論Ⅰ、Ⅱ 地域文化論Ⅰ、Ⅱ 地域地理学Ⅰ、Ⅱ 人口地理学Ⅰ、Ⅱ 都市地理学A、B 農村地理学Ⅰ、Ⅱ 住生活学Ⅰ、Ⅱ 観光論Ⅰ、Ⅱ 地域経済論A、B 地方財政論A、B 都市計画 交通計画 地域学習論Ⅰ、Ⅱ 地域コミュニティ論Ⅰ、Ⅱ 社会調査論 地域情報学Ⅰ、Ⅱ 公共社会学Ⅰ、Ⅱ	健康づくり論Ⅰ、Ⅱ 健康体力論Ⅰ、Ⅱ スポーツと身体システム 論Ⅰ、Ⅱ 健康と食品機能Ⅰ、Ⅱ 生涯スポーツ論Ⅰ、Ⅱ スポーツ指導論Ⅰ、Ⅱ 健康教育学Ⅰ、Ⅱ 健康スポーツデータ解析 Ⅰ、Ⅱ スポーツ生理学Ⅰ、Ⅱ 健康栄養学Ⅰ、Ⅱ スポーツ社会学Ⅰ、Ⅱ スポーツ経営学Ⅰ、Ⅱ スポーツ心理学Ⅰ、Ⅱ 体カトレーニング論Ⅰ、Ⅱ 運動処方論Ⅰ、Ⅱ 運動学概論 学校保健Ⅰ、Ⅱ 衛生学及び公衆衛生学 Ⅰ、Ⅱ ヘルス・エクササイズⅠ、 Ⅱ スポーツ・ゲームズⅠ、Ⅱ	卒業研究 卒業実習	社会福祉情報技術演習実習 (社会福祉士国家試験受験 者) 環境共生基礎実習 環境共生応用実習 まちづくり・インターシップ マヒ人留学実習A～D 人文地理学演習実習Ⅰ～Ⅳ 地域社会調査実習Ⅰ、Ⅱ 地域分界実習Ⅰ、Ⅱ 健康スポーツ・インターシップ 健康教育学実習 スポーツ生涯実習 健康栄養学実習 スポーツ社会学実習 スポーツ経営学実習		
4年前期											
3年後期											
3年前期											
2年後期											
2年前期	現代日本の文化と社会										
1年後期	大学・学問論 ジェンダーと教育 文化概論1・2 異文化理解1・2 文学概論1・2 世界遺産学 法政基礎論A・B イメージの比較文化学 アンケート調査 データで考える日本の観光 データで考える日本の自治 体経営 防災とリスクマネジメント 多変量データ データで考える日本の経済 データで考える日本の未来 データで考える日本の産業		福祉マネジメント論Ⅰ、Ⅱ 環境共生論Ⅰ、Ⅱ 地域プランニング論Ⅰ、 Ⅱ 健康スポーツ論Ⅰ、Ⅱ 地域社会学 生涯学習論								
1年前期	金融リテラシー アンケート調査 データで考える日本の観光 データで考える日本の自治 体経営 防災とリスクマネジメント 多変量データ データで考える日本の人口		地域創造体験実習A～C 地域創造学Ⅰ、Ⅱ 人権論					初年専ゼミⅠ 部 (レポートの書 き方含む)		地域課題セミナー 地域発見エクスポ ジション キャリア創成セミナー	

出典) 金沢大学 WEB サイト (<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/maptree/chisou>)

7.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

観光学・文化継承コースでは、金沢の地域資源を生かしたフィールドワークを重視しており、以下の授業を用意している。

講義名	概要
観光インターンシップ	基礎知識を修得する事前学習を行い、夏休みの約 2 週間、観光産業や自治体等の現場に入り、フィールドワークを行う。活動の成果報告を行い、社会への理解を深めるとともに、キャリアへの意識向上を目指す。
地域創造体験実習 A～C	地域における生活・文化・生業や地域づくり、地域支援活動などを直接に観察・体験することによって、地域に生活する人間、社会、環境と地域創造について理解するとともに、地域に対する関心と意欲、態度、展望を醸成する。

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

観光学・文化継承コースでは、観光や文化への理解を深めるための学問的授業を展開している。

講義名	概要
地域文化論	地域文化のあり方について国内外の地域を事例に文化人類学の手法で探る。社会や制度、慣習、生業、宗教信仰など地域文化の構成を学び、地域文化の果たす役割を考える。
コミュニティ・デザイン論	自然や文化と社会の両方を共に考え、観光に関わる都市の問題を解決するための理念や手法を学ぶ。その場所を利用する住民と、そこを訪れる観光客と共に空間を作る考えを学ぶ。
地域経営論	地方の衰退や都市再生などの地域の課題解決に向けて、多様な担い手の協働や共生社会の創造と地域特性に合わせた地域政策を考え、観光によって結びつく地域全体の経営を学ぶ。
地域創造学	誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりについての事例を学ぶ。

地域プランニング論 ・	地域計画、プランニング、人口動態、都市、農村、地方財政、地域経済、歴史文化資源、人材育成、IT 技術などへの理解を行う。
地域社会学	地域コミュニティの実態について、近代から現代にいたる内外の地域社会学理論から学習することをおして、自分自身の身近な問題として考え、地域コミュニティに生きる生活主体としての視点を養う。

【参考文献】

- Y 金沢大学人間社会学域地域創造学類 観光学・文化継承コース WEB サイト
<http://chisou.w3.kanazawa-u.ac.jp/course/tourism/index.html>
- Y 金沢大学教育情報 WEB サイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/>
- Y 経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業 WEB サイト
<https://www.service-jinzai.go.jp/>

8. 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻

広報、コミュニケーション、観光を融合させた人材育成

実施主体	国立大学法人北海道大学大学院
学部学科等	国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻
所在地	北海道札幌市北区北 17 条西 8 丁目
定員	修士課程 15 名、博士後期課程 3 名
期間	修士課程 2 年、博士後期課程 3 年
学部設置	2007 年

8.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

国際広報メディア・観光学院は、2007 年度に設置された人文社会科学系の比較的新しい大学院で、国際広報メディア専攻と観光創造専攻という二つの専攻から構成されている。これまで現代社会において私たちが直面しているアクチュアルな問題に対して、広報とジャーナリズム、メディアと文化、言語とコミュニケーションそしてツーリズムという複数の異なる観点を有機的に接合させ、領域横断的な教育研究を実践してきた。

(2) 実施体制

本専攻では、観光学高等研究センターとメディア・コミュニケーション研究院所属の専門スタッフが教育および研究を行っている。指導教員 1 名だけでなく、副指導教員を配し、専攻全体による「複数教員指導体制」をとっている点に特色がある。

研究組織・教育組織体制



出典) 国立大学法人北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 WEB サイト
 (https://www.imc.hokudai.ac.jp/exam/docs/2017IMCTS_Panf_jp.pdf)

本学院では、学内の研究組織及び学外の機関・組織が、国際広報メディア専攻と観光創造専攻の教育を支援する体制をとっている。多彩な専門領域からの専門家が学生の研究を総合的にサポートしている。

多彩な専門領域を持つ専門家によるサポート体制



出典) 国立大学法人北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 WEB サイト
 (https://www.imc.hokudai.ac.jp/exam/docs/2017IMCTS_Panf_jp.pdf)

8.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

観光創造専攻では、地域社会等で観光創造分野をリードできる幅広い専門的能力を有する高度な専門的人材、並びに観光が関わる広範な領域において次代を担う教育・研究を遂行できる優れた研究者、これら二者の養成を教育の理念として掲げている。

高度な専門的人材の養成に当たって、以下の3つの能力の育成に重点を置いている。地域の自然・文化資源等に関わる価値を創出する「価値共創」にかかわる力、民産官学の多様な利害関係者の協働関係を構築する「地域協働」にかかわる力、社会的課題を抱えた海外諸国・地域に観光による地域振興の手法を実践的に応用する「国際貢献」にかかわる力、の3つである。そして、これら3つの能力を基礎として持ちつつ、いずれかの能力において特に秀でた観光創造の専門的人材を育成することを目指している。

また、研究者の養成に当たっては、観光創造の根幹をなす活動や現象を対象として学術的研究を深化させ、新しい観光研究の領域を切り拓くことのできる力の育成に重点を置いている。

(2) カリキュラム実施背景

地域社会では、産業振興・事業創造の欠如、地場産業の衰退化、イノベーションの不足、都市集落機能の衰退化、自然災害の多発、農山漁村の過疎化、地域コミュニティの喪失など行政だけの課題解決は難しく、地域に住む人々との協働による課題解決が求められているため、文系理系の幅広い専門領域を身に付け、地域に生まれ育った人材を地域のリーダーとして地域に帰し、地域を活性化させることを目的として学部を設置し、カリキュラムを策定した。

(3) カリキュラム期間

国際広報メディア・観光学院は修士課程が2年、博士後期課程が3年である。

(4) カリキュラム構成

観光創造専攻においては、教育理念に基づき、各課程の教育方針に則った教育が行われる。修士課程（博士前期課程）においては、観光創造を通して地域再生に貢献しうる専門的能力を備え、リーダーにふさわしい資質の養成を目指す。また博士後期課程においては、新しい観光研究の領域を開拓でき「美しい日本の再生」や「文化創造国家の実現」に貢献できる高度な研究能力を備えた研究者を養成していく。

修士課程			
段階	1年目 高度専門基礎段階	2年目 高度専門応用段階	
目的	高度の知識をもつ専門の人材への第一段階として、方法的基礎と専門分野の全体像を獲得する	専門分野の実例研究や実習を通して、高度の知識をもつ専門の人材として自立する	
研究指導体制スケジュール	4月 ● アドバイザーの決定 9月 ● 指導教員の決定 10月 ● 学修計画書の提出 3月 ● 研究経過報告会	4月 ● 修士論文、特定課題研究趣意書の提出、副指導教員の選定 7月 ● プレゼンテーションスキル研修 夏 ● 修士論文、特定課題研究中間発表会 11月 ● 修士論文、特定課題研究題目の提出 1月 ● 修士論文、特定課題研究報告書の提出 2月 ● 修士論文、特定課題研究報告書の審査	
博士後期課程			
段階	1年目 研究基礎段階	2年目 研究発展段階	3年目 研究自立段階
目的	独創的研究職業人への第一段階として、高度な研究の基礎を築く	研究の深化と発展を図るため、研究の有用性を実証的に検証する	独創的研究職業人として自立し、研究を完成させる
研究指導体制スケジュール	4月 ● 指導教員を決定 (10月) ● 研究計画書を提出 3月 ● 研究経過報告書の提出 (9月) ● 公開の研究経過報告会において1年間の研究活動の成果を発表 ● 学生ごとに1名以上の副指導教員を選定 ● 予備論文Ⅰの発表	10月 ● 指導教員および副指導教員を中心とした適切な指導のもとで博士論文趣意書を作成提出 (4月) ● 公開の博士論文趣意書検討会を開催し、研究内容の学術的価値や独創性、研究方法の妥当性等について多角的に検討 12月 ● 指導教員および副指導教員による趣意書の検討結果を教授会に諮る (6月) ● 予備論文Ⅱの発表 3月 ● 予備論文Ⅱの発表 (9月)	11月 ● 博士論文提出 (6月) ● 教務委員会により、論文提出資格審査が行われ、博士論文提出のための資格要件が満たされているかを判定 1月 ● 教授会において博士論文受理について議決 (7月) ● 博士論文審査委員を選定し論文審査を開始 2月 ● 公開口頭試問の開催 (8月)

出典) 国立大学法人北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 WEB サイト
 (https://www.imc.hokudai.ac.jp/exam/docs/2017IMCTS_Panf_jp.pdf)

8.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

2017年度より株式会社 JTB 北海道との連携協定に基づき「観光マーケティング戦略論連携分野」が観光創造専攻観光文化論講座に開設した。客員教授 2 名を中心に JTB グループ企業派遣講師陣による「観光地域活性化戦略論演習」の開講など、観光産業の実務経験に即した実践的な観光マーケティング戦略論に関する教育・研究指導を担う。現場で活躍して



いる実務家との連携は、新たな教育・研究の成果や社会貢献活動の展開に向け、大きな期待を寄せられている。

出典) 国立大学法人北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 WEB サイト
(https://www.imc.hokudai.ac.jp/exam/docs/2017IMCTS_Panf_jp.pdf)

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

観光創造論講座では、文化多様性の時代におけるツーリズムの意味、国際協力と観光、地域文化と観光を3つの柱に、ツーリズムがもつ潜在的文化力・経済力・親和力を顕在化する方法を研究する。また新しい形の観光産業モデルはどうあるべきか、「生活の場」としての地域をツーリズムによっていかに活性化し、いかに持続的で自然な形で産業化するか、田園と都市の協働、地域ブランドの創生を軸に、理論研究と実践活動を行う。

講義名	概要
インバウンド・ツーリズム論演習	外国人旅行者の誘致方策だけに留まらず、地域がインバウンド・ツーリズムを推進することの意義やそれが地域に及ぼす影響などについても議論する。
風景計画論演習	「風景」から「故郷(くに)」づくりへ参加型で地域環境を形成する。地域の魅力を「見える化」し、その価値を人々と共有するための方法について検討する。
地域マネジメント論演習	観光施設運営を学び、地域のニーズに見合った日本版DMOの地域における役割や既存組織との関わりの視点から研究し、地域の特性を生かしたツーリズムの創造と国内外の旅行者に対応できる観光地づくりのメカニズムを構築する。
エコツーリズム論演習、地域創造論演習	日本国内やアフリカを始めとする世界各地のエコツーリズムに関する事例を取り上げ、地域が有する自然環境、歴史、生活文化の持続的な保全と継承、地域の自律的な活性化を図るための観光のあり方について検討する。
観光デザイン論演習、世界遺産マネジメント論演習	世界遺産から身近な文化的資産までを「文化資源」として取り上げ、景観づくりや観光振興の資源として生かす方策を計画論およびマネジメント論として学ぶ(フィールドワークあり)。
観光創造概論	住民が解説しやすい物語 = ストーリーに組み立てられるかを探求すること、そして観光まちづくりの国際協力を研

	究テーマとしている。
コンテンツ・ツーリズム論演習	コンテンツ(特にポピュラーカルチャー)の持つ文化資源・観光資源としての価値・可能性について事例を通して研究する。製作者＝地域＝旅行者がコンテンツを共有することでどのような交流や文化を創出できるのか、コンテンツ・ツーリズムという新たな観光のあり方を考える。
地域マネジメント論演習	観光施設運営を学び、地域のニーズに見合った日本版DMOの地域における役割や既存組織との関わりの視点から研究し、地域の特性を生かしたツーリズムの創造と国内外の旅行者に対応できる観光地づくりのメカニズムを構築する。

(3) 海外に通じるデザイン・文化理解等の実践的教育

ツーリズムに対する考え方は各地域間で共通するものと異なるものが存在すると考え、「旅」の社会的・文化的位置づけ、マスツーリズムの問題、「出会い」とコミュニケーション、観光の歴史その他、「旅の文化」の諸相を研究している。

講義名	概要
観光文化概論、観光創造特論、観光文化研究演習	ある場所が個性化されるプロセスの背後にどのような要素があるのかに注目し、社会学・人類学・観光学・宗教学といった諸領域の研究を参照しながら分析する。
メディア・ツーリズム論演習	メディア論と観光論をまたがりながら、空間・場所・移動をめぐるさまざまなまなざしと意識、感情をとらえるための方法を身につける。
観光思想論演習	時間・生命・風景を切り口として旅と人間について思索する。
文化遺産国際協力論演習	考古学、文化人類学、社会学、歴史学、政治学、様々な学問分野においてとり扱われるヘリテージの議論をとらえたうえで、観光とヘリテージの関係に焦点を当て、文献と事例研究から検討する。
観光人類学演習	国内外の文化人類学および社会学の文献を取り上げ、観光研究の動向を把握。そのうえで、観光をめぐる諸現象を分析する際の理論的枠組みを批判的に検討する。
観光社会文化論演習	社会文化論的視点から観光を分析し、再帰的に近代を問い直す。

観光コミュニケーション論演習	情報メディア論、社会心理学、精神分析学等の分野の他者論に関する研究を取り上げて議論する。
観光創造特論/観光文化概論	地域間の移住が生み出す多重的な生活・文化的空間を検討する。

(4) DMO人材の育成

国際広報メディア・観光学院としての授業はその多くが DMO につながるものとして捉えられるが、ここでは特に関連すると考えられる 3 つの授業を以下に挙げる。

講義名	概要
インバウンド・ツーリズム論演習（再掲）	外国人旅行者の誘致方策だけに留まらず、地域がインバウンド・ツーリズムを推進することの意義やそれが地域に及ぼす影響などについても議論する。
風景計画論演習（再掲）	「風景」から「故郷（くに）」づくりへ参加型で地域環境を形成する。地域の魅力を「見える化」し、その価値を人々と共有するための方法について検討する。
地域マネジメント論演習（再掲）	観光施設運営を学び、地域のニーズに見合った日本版 DMO の地域における役割や既存組織との関わりの視点から研究し、地域の特性を生かしたツーリズムの創造と国内外の旅行者に対応できる観光地づくりのメカニズムを構築する。

また、国際広報メディア・観光学院では、学生向けの授業以外に、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役を担う日本版 DMO で中心となって活躍する人材を育成するプログラムとして、2017年6月より、日本で初めて「DESTINATION・マネージャー」育成のための履修証明プログラムを開講した。（定員5名）

社会人を対象とした1年間のカリキュラムで、修了者には北海道大学総長名による「履修証明書」が交付される。プログラムは、地域資源の保護・活用、それらを通じた観光振興の方策や関連法制度、観光関連産業の市場構造や事業運営の仕組み、観光政策や観光振興を目的とした官民連携・協働のあり方や資金調達の手法、旅行者の誘致に資する効果的なプロモーション手法等に関する、専門的な理論と実践的な技能を身につけるための講義となっており、北海道大学構内（札幌市）で行われる座学形式の講義だけでなく、国際広報メディア・観光学院および観光学高等研究センターが連携する道内の自治体に出向いてのフィールド型演習も組み込まれている。

デスティネーション・マネージャー育成プログラム 講義名
地域マネジメント論演習
観光創造特論（観光と地域経営）
観光地域活性化戦略論演習
観光創造概論
観光事業マネジメント実践講習

【参考文献】

- Y 国立大学法人北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 WEB サイト
https://www.imc.hokudai.ac.jp/exam/docs/2017IMCTS_Panf_jp.pdf
- Y 国立大学法人北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院「デスティネーション・マネージャー」育成プログラム WEB サイト
https://www.imc.hokudai.ac.jp/imcts/destination_manager/

9. 京都大学経営管理大学院 観光経営科学コース

観光経営科学MBAプログラム

実施主体	京都大学経営管理大学院 観光経営科学コース
運営	観光 MBA コース開発プロジェクト事務局
所在地	京都市左京区吉田本町 36
定員	定員 5 名程度（特別選抜全体の社会人定員 30 名程度として、その中で調整する）
期間	修業年限 2 年
開講	2018 年

9.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

京都大学経営管理大学院観光経営科学コースは、世界一の観光都市京都において開設される、日本語の講義を中心とした国際的に認証された経営学修士（MBA）プログラムである。

観光の地域と企業の経営や事業の分野で働く方々を対象にして、経営の基本的な考え方を学ぶと共に、観光の地域や事業の経営の仕方について国際的な文理融合の観点から現場主義で学ぶ。日本の観光立国を進める上で、観光の地域と産業を活性化する経営能力を育成する。

(2) 実施体制

京都大学経営管理大学院は、文理融合の専門職大学院である。グローバルで総合的で科学的な視点から、おもてなし、サービス、観光の経営課題を分析する。そして、ホスピタリティ経営分野の実践的なケース分析や調査研究、フィールドワーク、国際交流などを通じて、世界トップレベルでの「ソリューション」導出を志向する。文理融合のスタッフ、観光地経営の世界的な研究動向を研究スタッフが揃った環境である。

観光だけではなく、先端的なサービスビジネスの経営学理論を踏まえて、ビジネスモデルについて「ケースメソッド」でも学べる。観光分野において顧客経験を革新するサービス・イノベーションのあり方を考える。

(3) 活用している予算等

教育プログラムの開発は、国土交通省観光庁より発注された調査事業である日本経済新聞社「産学連携による観光産業の経営人材育成に関する業務」受託事業における平成 28 - 29 年度の成果に基づいている。

9.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

観光の地域と企業の経営や事業の分野で働く方々を対象にして、経営の基本的な考え方を学ぶと共に、観光の地域や事業の経営の仕方について国際的な文理融合の観点から現場主義で学ぶものである。日本の観光立国を進める上で、観光の地域と産業を活性化する経営能力を育成する。

まずは、経営戦略、組織論、マーケティング、会計学、ファイナンス、統計学や、情報システムなどについての経営の基本知識を身につける。その上で、観光経営学だけではなく、サービスビジネスモデルやおもてなし経営論などのサービスの経営とイノベーションに関わるサービス経営を総合的に学ぶ。

(2) カリキュラム実施背景

京都大学経営管理大学院「観光経営科学MBAプログラム研究開発」チーム（代表：若林直樹教授 / 前川佳一特定准教授）にて、2016 年度の調査事業を通じて、観光分野におけるMBA教育プログラムの構想案が作成された。

(3) カリキュラム期間

修業年限 2 年（長期履修制度対象としない、他プログラムへの移動は原則不可）

(4) カリキュラム構成

カリキュラムは基礎科目と専門科目、実務科目及びワークショップで構成される。

科目	内容
基礎科目 (12 単位以上)	・ 必修：経営戦略、組織行動、マーケティング、会計学、統計学のMBA基礎 5 科目 ・ その他：経営管理の他の 5 科目から 1 科目以上選択
専門科目 (18 単位以上) 選択必修 5 科目中 3 科目の履修を求める	観光関連科目 ・ 選択必修：デスティネーション・マネジメント概論、Global Tourism & Hospitality Management など ・ 選択：観光と老舗等

	サービス&ホスピタリティプログラム(現・サービス価値創造プログラム) 提供科目： ・サービス経営論などの共通科目、おもてなし経営論、ツーリズムファイナンス論等の統合ホスピタリティ経営の科目群、サービス創出方法論等
	経営管理大学院他プログラム専門科目
	他研究科：公共政策大学院：行政システム(公共政策・基礎科目)、公共管理論
実務科目 (8単位以上)	観光関連 ツーリズム産業論、京都観光文化論、デスティネーション・マネジメント実践等
	その他サービス サービスビジネスモデル、サービス新規事業開発、まちづくりとまち経営、グローバル・ロジスティックスと貿易等
ワークショップ (4単位)	下記のうちのいずれか1テーマを選んで、卒業研究を行う。 ・観光経営イノベーション研究 (Tourism Innovation) ・観光地域マネジメント研究 (Destination Management)

9.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

講義名	概要
ビジネスコンサルティング実務	ビジネスコンサルティング手法に関する講義を行い、それを踏まえた個人ワーク、グループワークにより、コンサルティング業務を実践し、その理解をすすめる。講義・実習の多くについては、代表的なコンサルティング企業アビームコンサルティング株式会社のその中で企業変革の現場で活躍している戦略コンサルタントが担当する。

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

講義名	概要
サービス経営論	サービスの本質、マーケティングの特性、サービスのデザイン、生み出す組織作り、イノベーションの仕組みについての基本的なマネジメントの考え方を理解する。
サービスビジネスモデル分析	産業のサービス化とサービス領域の拡大を前提とし、広義のサービスにおける価値創造の方法について理解するためのフレームワークと事例を学生に提供することを目的とする。
Global Tourism and Hospitality Management	Day1: “The Big Picture” The Market: Current and Emerging Consumer Behavior Trends Day2: “The Game Changer” Technology and Information Management: Impact on Global Tourism and Hospitality Management Day3: “Strategic Hospitality Management” Building Sustainable Competitive Advantage: Leadership Challenges and Opportunities

(3) 海外に通じるデザイン・文化理解等の実践的教育

講義名	概要
京都観光・文化論	京都観光に関わる各界の有識者を招いて、観光の文化・歴史を考える。
観光と老舗	観光と老舗がともにもつ地域性と伝統性との焦点を合わせ、概観することがこの科目の目的である。

(4) DMO人材の育成

講義名	概要
destination・マネジメント論	官民間問わず、より広く観光における集客マーケティング組織の在り方の諸相を探る。

【参考文献】

- Y 京都大学経営管理大学院 観光経営科学コース WEB サイト
<http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/kmba/>
- Y 京都大学経営管理大学院 観光経営科学コース（「観光MBAコース」の概要）
https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/kmba/docs/files/press_1.pdf
- Y 平成 28 年度 観光MBA大学報告書（公開版）
https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/kmba/docs/files/report_1.pdf
- Y 京都大学大学院経営管理教育部（専門職学位課程）経営管理専攻学生募集要項
https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/images/daigakuinkakari/boshuyoukou/30/tokubetsu_kanko3.pdf

10. 中村学園大学 フード・マネジメント学科

地域の食産業と連携したプログラムによる人材育成

実施主体	学校法人中村学園 中村学園大学
学部学科等	栄養科学部 フード・マネジメント学科
所在地	福岡県福岡市城南区別府 5-7-1
定員	100名/年(平成30年度)
期間	4年制
学科設置	2017年4月

10.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

中村学園大学は、栄養科学部、教育学部、流通科学部を持つ大学であり、フード・マネジメント学科は2017年4月に栄養科学部に設置された。フード・マネジメント学科では、一般教養や栄養科学の基礎知識とともに、食品を研究・開発・製造する知識、食品科学をビジネスにつなげる知識などを教育し、新たな食産業を創出する「食のスペシャリスト」を育成することを目指している。

(2) 実施体制

高付加価値化が求められる産業の即戦力となる人材を育むために、学科と地元九州の経済をけん引している食関連企業・団体とが共同で教育プログラムを開発し、現役の食のプロによる授業やインターンシップでの実務体験など、実践力を培うカリキュラムを充実させている。

(3) 活用している予算等

平成27年度経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」を活用し、フード・マネジメント学科のカリキュラム開発を行い、学科を開講させた。平成28～29年度も同事業を活用し、国際的なサービス経営人材育成課程となる米国ハワイ大学KCCとのダブルディグリープログラムを設けたほか、食産業で活躍する社会人を対象にリカレント教育プログラムの設置・開講を目指している。

10.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

フード・マネジメント学科では、教育目標を、「栄養科学の知識・技術を基盤とし、食品の研究・開発・製造に関する食科学をグローバルな視点から国内外のビジネスへつなげる高度な専門性と実践力を備え、食産業で活躍できる人材を養成」することとしている。

(2) カリキュラム実施背景

中村学園大学は栄養科学部栄養科学科を中心に、長年にわたり日本でも有数の管理栄養士養成校として君臨し、「食の中村」として、多くの管理栄養士や研究者を輩出してきた。昨今の健康志向の高まりや、食産業の高付加価値化を支える即戦力となる人材育成が必要とされていることを背景に、本カリキュラムを作成・実施している。

(3) カリキュラム期間

フード・マネジメント学科は4年制の学部・学科である。

(4) カリキュラム構成

カリキュラム構成は以下のとおり。



栄養科学部「フード・マネジメント学科」4年間のカリキュラム

基礎・応用科目で学んだことを、実習科目とフィールドワーク科目で提供するアクティブラーニング。知識を得る、自ら考える、体験するというステップを繰り返すことで、社会で役立つ実践的な力を身につけます。実習科目は、実際の企業で活躍する専門家も教員、フィールドワーク科目では、キャンパスを飛び出し、体験を通して学びます。

	1年次 栄養科学と食品科学の基礎を学び、国内食文化の現状を知る	2年次 実習・フィールドワークを通して食品への理解を深める	3年次 食品学・食品ビジネスの学びをさらに深め、インターンシップを通して実務を体験	4年次 食産業が抱える課題を発見・解決する力を養い、社会とつながる
フィールドワーク科目	国内食文化研修 知る・見る・感じる、学びへの動機付け 自分のアタマと心で実際の製造現場訪問を通して学びます。「飲食」を中心とした食文化を学び、食品開発やビジネス展開の背景を身につけます。	食品工場見学 知識と実際とのギャップを知る 食品工場の見学を通して、それまで得た知識と現場のギャップを知らぬことで、食品の製造や加工の現場に対する知識の拡大・深化をはかります。	食品ビジネスインターンシップ 理論を実務につなげる 国内外の食産業関連企業などでのインターンシップを通じて、これまで学んだ栄養科学、食品学、食品ビジネス実務を通して学びます。	海外食文化研修 学部教育の集大成 海外の食文化を、各分野のメジャー・ミナーから学び、海外企業に海外展開中の食品開発や販売ビジネスを展開する上で必要な実務を学びます。
	実習科目	「食品ビジネス概論編」 食産業の現場の声から学ぶ 企業で活躍する実務者様についての講義です。産業や食品産業の現場における課題とその解決に向けた取り組みや、新しい「食産業」の形を考えます。	「食品企業経営概論編」 企業経営者レベルの声から学ぶ 企業経営者やトップマネジメント層を招いたの講義です。食品関係企業での現場を想定したため、企業経営の動向を考えます。	「食品開発論」&「9次産学化論」 「食品展示の実務」 実務担当者から学ぶケーススタディ 企業の開発担当者など招いたの講義です。食品開発をテーマにケースに、企業から製品化までの一連のプロセスを学びます。
知識を身につける科目	<ul style="list-style-type: none"> 栄養科学専攻科目 基礎栄養学 解剖生理学 食品化学 食品微生物学 食品分析学 食品物理学 食品化学実験 食品化学実習 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎栄養学専攻科目 栄養学実習 食品化学 食品微生物学 食品分析学 食品物理学 食品化学実験 食品化学実習 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎栄養学専攻科目 食品微生物学 食品分析学 食品物理学 食品化学実験 食品化学実習 	<ul style="list-style-type: none"> 食品ビジネス専攻科目 マーケティング概論 マーケティング実習 食品マーケティング論 マーケティング実習
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> 英語学 英語リーディング 英語ライティング 英語リスニング 英語リーディング実習 英語ライティング実習 英語リスニング実習 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学 英語リーディング 英語ライティング 英語リスニング 英語リーディング実習 英語ライティング実習 英語リスニング実習 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学 英語リーディング 英語ライティング 英語リスニング 英語リーディング実習 英語ライティング実習 英語リスニング実習 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学 英語リーディング 英語ライティング 英語リスニング 英語リーディング実習 英語ライティング実習 英語リスニング実習

経済産業省
「平成27年度競争力強化支援事業」に採択された
教育プログラムが「日本一」の評価を受けました

平成28年3月4日、経済産業省において、栄養科学部「フード・マネジメント」学科の教育プログラムのプレゼンテーションが実施され、サービス経営人材育成大賞を受賞しました。本学は、平成27年度経済産業省「競争力強化支援事業」の採択を受け、地域の高度化と連携した教育プログラムを構築しました。このたび、本事業に採択された全国17大学から選ばれた大学として各校が選出され、経済産業省でのプレゼンテーションに選ばれた。この教育プログラムを基に高度化のマネジメント人材の育成を推進します。

出典) 中村学園大学 WEB サイト (<http://foodmg.nakamura-u.ac.jp/curriculum/index.html>)

10.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

フード・マネジメント学科では、食品ビジネス戦略論、6次産業化論などの授業を通じて地域の食分野企業・団体と連携したプログラムを提供することとしている。講義や工場見学、研修などが企業等の協力を得たプログラムとなっているのが特徴である。

講義名	概要
食品ビジネス戦略論	企業のトップマネジメントを招き、食産業の現場における課題とその解決方策、解決の考え方、解決の実践について講義いただくとともに、講義の内容をもとに学生の間で討論を行い、今後の食産業のあり方について幅広い視野から理解を深める。
6次産業化論	農林水産業の6次産業化の理論を学ぶほか、その実践について、地域で6次産業化を担っている行政や企業の担当者を招き、実際の商品開発事例などを交えながら学ぶ。 (平成31年度から開講)
海外食文化研修	海外の食文化について各分野のゲストスピーカーから学ぶ。特に日本と異なる食文化を考察し、対象国・地域の海外展開用の食品開発や海外ビジネスに必要なスキルを学ぶ。 (平成32年度から開講)
食の機能性評価学	機能性食品のエビデンスの収集方法についてケースメソッドで学ぶ。特定保健機能食品(トクホ)や機能性表示食品の開発事例など、実際の開発担当者からその考え方や、ノウハウを学ぶ。 (平成32年度から開講)

(2) 海外に通じるデザイン・文化理解等の実践的教育

フード・マネジメント学科では「海外食文化研修」というフィールドワーク科目を設けており、海外の食文化について、日本と異なる食文化を考察し、対象国・地域の食品開発や海外ビジネスに必要なスキルを学ぶ機会を提供する。

また、アジアを含む国際的な食文化に関する講義も充実させており、国内外の文化理解を促進させることとしている。

講義名
海外食文化研修
国際食文化論
和食文化論
アジア食文化事情
国際食文化概論

【参考文献】

- Y 経済産業省「サービス経営人材育成事業」WEB サイト
<https://www.service-jinzai.go.jp/univ16.html>
- Y 中村学園大学フード・マネジメント学科 WEB サイト
http://www.nakamura-u.ac.jp/faculty/uni_foodmg/

11. 宮城大学 食産業学群

実践的な授業によるフードサイエンス人材を育成

実施主体	公立大学法人宮城大学
学部学科等	食産業学群
所在地	宮城県仙台市太白区旗立二丁目2番1号
定員	125名
期間	4年制
学科設置	2017年（前身の食産業学科は2005年設立）

11.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

宮城大学食産業学部は日本初の食産業全体を考える学部として2005年に設置された。2016年度入学者までは「ファームビジネス学科」、「フードビジネス学科」、「環境システム学科」の3つの学科からなる学部であったが、2017年度、「食資源開発学類」と「フードマネジメント学類」の2つの学類からなる食産業学類に組織が変更された。

食産業学類では、食材生産からスタートし、加工・流通・外食を経て消費者の口に入るまで、人が生きるために不可欠な「食産業」の全過程について、基礎から専門まで学ぶ。また、作物学、畜産学、栄養学、食品科学のような自然科学系科目と、食料経済論やマーケティング論のような社会科学系科目の両方を学び、文理融合の教育で食産業全般の知識を持ち、地域に貢献する人材を育てている。なお、食資源開発学科ではサイエンステクノロジーによる食資源の開発を重点的に取り組んでおり、地域資源を生かした商品開発はフードマネジメント学類で提供されている。

食産業学類

学類	コース
食資源開発学科	・動物生産科学コース ・植物生産科学コース
フードマネジメント学類	・フードビジネスコース ・フードサイエンスコース

(2) 実施体制

宮城大学では自治体や企業・団体等と連携し、キャンパス内の学びだけではなく、地域でのフィールドワークやアクティブ・ラーニングによる教育を強化している。食産業学群でも酒造りの体験や、企業とのプロジェクトで新商品開発、自治体と連携した地域の特産品活用の取組も行っている。

11.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

宮城大学食産業学群フードマネジメント学類では、安全で安心な食品を安定的に供給できるフードシステムの構築のために必要なサイエンスとビジネスの両面にわたる知識を持ち、複眼的思考により食産業の問題解決に当たる人材を育てることを目的としている。

(2) カリキュラム実施背景

現代の食産業では、少子高齢化の影響で国内での需要は減少し、グローバル化が進行していく中で、国内では高齢者用の食品開発など、マーケットを見据えた高付加価値の農畜水産物や加工食品が求められている。また、流通におけるeビジネスや、グローバルGAPやHACCPなど農業生産管理や食品衛生管理の国際標準化も求められているため、経営管理と食品化学、両方の知識・技術を兼ね備えた食のスペシャリストを目指す教育を提供している。

(3) カリキュラム期間

食産業学群フードマネジメント学類は4年制の学群・学類である。より高度専門的な研究を行うため、食産業研究科（修士課程・博士課程）が設置されている。

(4) カリキュラム構成

宮城大学では「フレッシュマンコア」制度を導入しており、どの学群に所属している学生も1年次は全学群共通の必修科目群を受講する。この全学群共通科目においても、地域資源の発掘や地域の魅力や課題の整理・分析を行うフィールドワークの機会が提供されている。

2年次に進級する際に学類が選択され、食産業学類フードマネジメント学科では食産業をビジネス・サイエンスの両面から理解するための専門基礎科目が提供される。（食品企業経営論、食品化学、食材生産加工実習、食品マーケティング論）

3年次の進級時、食産業学類の学生はフードビジネスコースとフードサイエンスコースのうち、どちらか1つの専門コースを選択し、それぞれ食産業を健全に発展させるビジネスリーダー、食産業にイノベーションを起こす技術者を育成するための専門教育を受ける。フードビジネスコースでは、食料経済論、ローカルフードシステム論、フードシステム産業論、フードシステム調査実習等の食品ビジネスに関する科目を受講する。一方、フードサイエンスコースでは、発酵食品・醸造学、調理科学、食品工学等の食の加工・生産に関する科目を受講する。




出典) 宮城大学 WEB サイト (<http://www.myu.ac.jp/site/myunavi/foodmagm.html>)

11.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

宮城大学ではキャンパス内の学びだけではなく、地域でのフィールドワークやアクティブ・ラーニングによる教育を強化しており、自治体や企業・団体等と連携したプロジェクトを実施している。

プロジェクト名	概要
宮城大学 × 三陸オーシャン × 藤崎「三陸ほや物語」	<p>仙台の百貨店株式会社藤崎、水産加工業の株式会社三陸オーシャンと共同し、食産業学部フードビジネス学科の学生がお歳暮プロジェクトとして商品開発に着手し「三陸ほや物語」を完成させた。</p> <p>ホヤの消費拡大につなげるため、学生がネーミングや包装デザインを考案し、試食販売会を行った。</p> 
和牛能力共進会	<p>2017年に開催された和牛能力共進会の全国大会で、学生が仙台牛ハンバーグを提供した。商品の企画～提供までを学生が行っている。</p>

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

フードビジネスコースでは食産業のビジネスリーダー育成のため食品に関するマーケティングの科目が提供されている。単なる座学での学習だけでなく、地域活性化のため、地域特産品を活用したメニューの検討、及び提供する飲食店のコンセプト検討等、実践的に食に関する総合的なコーディネートを実践的に学んでいる点が特徴である。

講義名	概要
食品マーケティング論	<p>食産業を対象としてマーケティングの主要概念について、講義や具体的な事例に接することで理解を深め、ツールとして利用可能になることを目的とする。</p> <p>学生による主体的な参加を促すためチームによるプレゼンテーションも実施しながら、食産業におけるマーケティングの現状と課題を認識し、将来への事業展望について考察する。</p>
応用マーケティング論	<p>食品マーケティング論で学んだ基礎的な離村を、脳科学事例(ケース)をベースに理解を深め、応用編として「実際に現場で使える」ことを目的とする。現代のニューロマーケティングにおける現状と課題を理解し、マーケティングの理論を、実際のニューロビジネスの企業事例に応用する。</p>
食品マーケティング演習	<p>マーケティングの基礎を復習の上、学生が商品企画のマーケティングプランを手がける演習形式の科目である。</p> <p>市場調査からターゲティング、商品名やパッケージデザイン、提供する店舗のコンセプトまでを検討する。地域の現場をフィールドにすることで、実務レベルの方々との交流を通じた学びが体験可能である。</p> <p>【過去の実施テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食店の企画を含めた宮城の伝統野菜の活用方法 ・大学の農園で取れたりんごを活用した商品及び、販売方法
食品企業経営戦略演習	<p>企業の財務表等の資料から企業の強みや課題を発見する演習を行う。取り上げる題材は企業のケースメソッドや、教員が調査・研究の中で収集したオリジナルの事例を取り上げている。</p>

(3) 海外マーケティング・市場開拓等の実践的教育

フードサイエンスコースでは、食品衛生管理の国際標準化に対応するため、HACCPによる衛生管理に必要な技術に関する実習の授業を提供している。

講義名	概要
食品衛生学	食品衛生について講義形式で知識を取得する。日本の HACCP 以外に EU の HACCP、アメリカの HACCP の基準、FSSC (ISO 22000 をベースに、より確実な食品安全管理を实践規格) 等を学ぶ。
食品衛生学実験	微生物検査、残留農薬、食品添加物のチェック・分析など食品会社の品質管理部門で行っている品質や安全のチェックを学生実験で実践する授業である HACCP による衛生管理にも対応できる技術的な面のバックアップも行っている。
品質保証システム論演習	グループワークで HACCP の基準を確保するための計画を設計する演習を行う。具体的な加工食品等の加工工程・生産現場の図面からハザードの対応方針を検討する。授業の中では、県内の企業の工場の図面を取り上げることもある。

【参考文献】

Y 宮城大学 WEB サイト <http://www.myu.ac.jp/>

12. 吉備国際大学 農学部地域創成農学科

食と農の発展による地域の活性化を通じて、地域創成に 貢献できる人材を育成

実施主体	吉備国際大学 農学部 地域創成農学科
運営	吉備国際大学
所在地	兵庫県南あわじ市志知佐礼尾 370-1
定員	50 名（入学定員）
期間	4 年制（修業年限）
学科設置	2013 年

12.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

吉備国際大学は、平成 25 年度文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に採択され、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学として高い評価を得ている。学園文化都市の高梁市、国生み神話のロマンが香り食資源の豊富な南あわじ市、および山陽道の中核都市岡山は、我が国の地方創生の要となる重要な地域である。本学は、これら地域コミュニティの中核的大学として、地域社会が抱える課題解決に積極的に取り組む実学重視の教育研究を実施し、明日の地域社会をリードできる実践力を培った人材の養成に努めている。

(2) 実施体制

地域創成農学科の教員は常勤・非常勤ともに大半が国立大学で長年指導を行ってきた一流の教授陣が揃っている。また、開設して間もないのですべて最新の研究・教育設備を導入している。

淡路島は日本でも有数の農業生産地で、玉ねぎやレタス、白菜など数多くのブランド野菜を保有している。また、温暖な瀬戸内気候のため一年を通じて作物を作り続けられるので、農閑期がない。そんな恵まれた環境の中、フィールド実習や食農コース実習ではプロの農家から本物の農業技術を学ぶことができる。

12.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

農業生産、加工、経営全般にわたる専門的知識と実用的技術を幅広く身につけ、地域社会や国際社会における農業の現状や課題を的確に捉える能力を養い、食と農の持続的な発展による地域の活性化を通じて、地域創成に貢献できる人材を育成する。

一般的な農学部では、農業生産、食品加工、農業経営などの専門分野ごとに複数の学科に分かれるが、この「地域創成農学科」では、四年間の大学生活の中で、一つの専門分野のみではなく、農作物の生産から食品加工・農業経営まで、農業・食品の一連の流れをすべて学べるカリキュラムとなっている。総合的な知識を身につけた上で、各自の専門とする分野を学習して卒業し、社会で活躍して欲しいという想いが込められているためである。そのために、最初の2年間ですべての分野を一通り学び、3年次以降、その中で最も興味のある分野に配属してより高度な知識・技術を習得する専門教育プログラムを用意している。

農業技術分野 品質の高い農産物の生産や病害対策など農業の軸となる知識・技術を学びます。	食品化学・加工分野 栄養や安全性を踏まえた食品の分析・加工など実践的な知識・技術を学びます。	農業経済・経営分野 食と農に関する経済・経営・政策とその課題解決について総合的に学びます。
---	--	---

地域創成

農業の生産・加工・経営全般にわたる専門的な知識と技術を学んだ上で、広い視点に立って地域創成に寄与していくことのできる力を身につけます。

農業の生産・加工・経営をトータルに学習

全体の視点で考え、高度な専門性を発揮して、地域のために行動できる人になろう！

地域創成農学科では、農産物の生産、加工、流通、消費及び農業経営、農業政策をトータルに学び、それぞれの専門分野に進みます。そして、地域産業全体の調和を図りながら、学んだ専門性を活かして地域の創成に貢献できる実践力を備えた人材を育成します。

淡路島がまるごとキャンパス

豊かな自然と歴史を持つ日本有数の農業生産地で、“本物”の農学を学び、学生生活をエンジョイしよう！

我が国固有の農業生産地である淡路島で本学部が展開する2年間の「フィールド実習」や「南あわじ農業学（施設見学を含む）」などの教育プログラムは他大学にない特徴であり、“本物”を学ぶことができます。また、「鳴門のうずしお」などの豊かな自然や「人形浄瑠璃」などの伝統文化に恵まれた淡路島で学生生活をエンジョイしましょう。



出典) 吉備国際大学 農学部 地域創成農学科 WEB サイト
(<http://kiui.jp/pc/gakka/nougaku/index.html#tokuchou>)

(2) カリキュラム期間

吉備国際大学 農学部 地域創成農学科は 4 年制の学群・学類である。

(3) カリキュラム構成

カリキュラム構成は以下のとおり。

主なカリキュラム



1年生	<p>全学科共通カリキュラム科目</p> <ul style="list-style-type: none">・フィールド実習Ⅰ ・基礎実習Ⅰ・Ⅱ・地域創成農学概論 ・食の安全学 ・生物の進化と多様性・遺伝学概論 ・生物学実験 ・家畜とその飼養管理 ・野菜園芸学 ・栽培学概論	<ul style="list-style-type: none">・フィールド実習Ⅰ・食の安全学・地域創成農学概論
2年生	<p>全学科共通カリキュラム科目</p> <ul style="list-style-type: none">・フィールド実習Ⅱ ・基礎実習Ⅲ・Ⅳ ・インターンシップ・植物病理学 ・植物細胞生理学 ・土壌科学 ・植物育種学概論・食品加工化学 ・炭水化合物化学 ・微生物学 ・食品衛生学・経済発展と農業問題 ・農業経済学 ・農業経営学	
3年生	<ul style="list-style-type: none">・地域創成農学実習Ⅰ・Ⅱ・食糧コープ実習・化学実験 ・農薬学概論 ・農産プロセス工学概論 ・施設栽培・標榜工場論 ・家畜の構造と病気・乳製品加工学 ・食品保蔵学 ・飼料微生物学 ・食品機能分析化学・農林事業者の法的対応法 ・農業計算学 ・農産物貿易論 ・フードシステム論	
4年生	<ul style="list-style-type: none">・地域創成農学実習Ⅲ・Ⅳ・植物バイオテクノロジー概論 ・総合的経営学・農産物加工学・地域マネジメント論 ・食品安全の経済学・卒業論文	

出典) 吉備国際大学 農学部 地域創成農学科 WEB サイト
(<http://kiui.jp/pc/gakka/nougaku/index.html#tokuchou>)

12.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

地域創成農学科では、淡路島で行われている農業の実際の姿を学ぶことができるよう、充実したフィールド実習を用意している。

講義名	概要
食農コープ実習、インターンシップ	南あわじ市、南あわじ商工会と連携し、食と農に関する企業や行政部門で、学生が概ね2週間の実習を行う。
フィールド実習	淡路島の特産品である玉ねぎ、レタスや、コメ、白菜などの作物の栽培を1年間行い、農業技術を学ぶ。講師に地元の元農業技術センター職員や、元JA職員を招いて、淡路島の農業を学んでいる。

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

講義名	概要
地域学概論	地域の諸問題については、南あわじ市の各部署より講師を招き南あわじ市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。
地域貢献ボランティア	ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。
南あわじの歴史と文化	南あわじの自然や風土、風俗、人間性について理解を深める。
南あわじ農業学	全国有数の農業生産地である南あわじ地域の農業の現状や発展経過、たまねぎやレタスなどの生産技術、また関係機関や関係業者の取り組みや支援体制などを知り、地域全体での産地づくりについて理解する。またこれにより、南あわじ地域の今後の農業生産、流通、加工および農村地域の活性化などについて提言できるようになる。
日本の伝統実技 (文)	淡路島の伝統文化である「淡路人形浄瑠璃」と「だんじり唄」を取り上げ、地域伝統文化に対する理解を深め、実際に体験する。

日本の伝統実技（武）	武道の精神を身に付けるとともに、合気道の歴史やその理念を理解する。
------------	-----------------------------------

(3) 海外マーケティング・市場開拓等の実践的教育

講義名	概要
吉備国際大学から世界へ	地域創成農学科 1 年生を対象に行う授業「吉備国際大学から世界へ」では世界で活躍されている著名な方をお招きして講義を行う。この講義を通じて地域と世界の多様性や共通点を学び、世界を見据えた幅広い視野を身につける。

【参考文献】

- Y 吉備国際大学 農学部 地域創成農学科 WEB サイト
<http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/kmba/>
- Y 平成 29 年度カリキュラム・マップ
<http://kiui.jp/pc/joho/curriculummap/chiikisousei2016.pdf>

13. 佐賀大学 芸術地域デザイン学部

地域資源や地域課題を芸術の力で解決

実施主体	国立大学法人 佐賀大学
学部学科等	芸術地域デザイン学部
所在地	佐賀県佐賀市本庄町 1
定員	110 名 / 年 (平成 30 年度)
期間	4 年制
学部設置	2016 年 4 月

13.1. 学校・学科概要

(1) 実施主体の特徴

佐賀大学は文系・理系をあわせもつ総合大学であり、芸術地域デザイン学部は 2016 年 4 月に、芸術を通じた地域創生のための人材の育成を目的として、設置された。芸術地域デザイン学部では、地域社会において「芸術で地域を拓く人材」、国際社会で活躍する「芸術で世界を拓く人材」を育成することを目指している。

芸術地域デザイン学部

コース	専門分野
芸術表現コース	・美術・工芸分野 ・有田セラミック分野
地域デザインコース	・地域コンテンツデザイン分野 ・キュレーション分野 ・フィールドデザイン分野

(2) 実施体制

芸術地域デザイン学部では、佐賀県窯業技術センター、佐賀県立九州陶磁器文化館と連携している。また、県との連携による地域でのワークショップ開催、NPO が主催するアートフェスタでのワークショップ開催・企画展示、JA 伊万里等との連携による長粒米ブランディング等に取り組む。

(3) 活用している予算等

芸術地域デザイン学部では「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を活用した取組も複数実施している。

13.2. カリキュラム概要

(1) カリキュラムのねらい・目的

芸術地域デザイン学部では、佐賀大学の歴史と伝統、人的資源・物的資源を結集させ、佐賀県、北部九州地方を主なフィールドとして、地域の課題に向き合い、芸術によって地方・地域創生を果たす人材養成を行う。そのために、芸術の理論・技能のみならず、経済・経営、自然科学、工学などの分野領域の教育も行い、幅広い視野と知見を培うことができるカリキュラムとしている。さらに、全学的な協力体制も構築し、他の学部（教育、経済、医、理工、農）で開講されるさまざまな分野領域の科目を履修することができるシステムとしており、芸術を社会活動、経済活動、そして実際の生活の中で有効的に機能させる手法の習得を狙っている。

(2) カリキュラム実施背景

地域社会では、産業振興・事業創造の欠如、地場産業の衰退化、イノベーションの不足、都市集落機能の衰退化、自然災害の多発、農山漁村の過疎化、地域コミュニティの喪失など行政だけの課題解決は難しく、地域に住む人々との協働による課題解決が求められているため、文系理系の幅広い専門領域を身に付け、地域に生まれ育った人材を地域のリーダーとして地域に帰し、地域を活性化させることを目的として学部を設置し、カリキュラムを策定した。

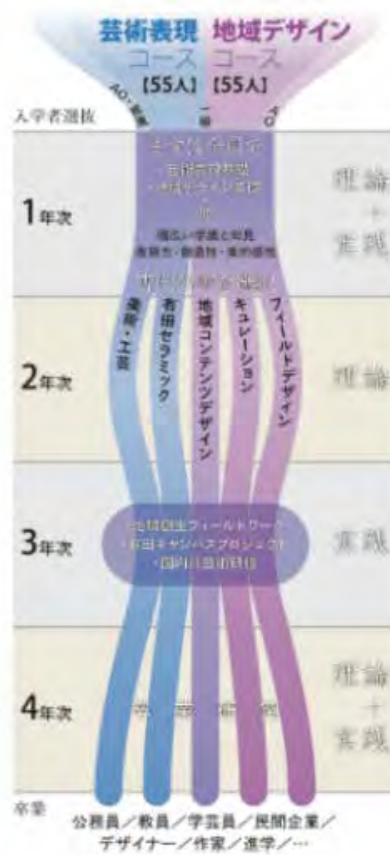
(3) カリキュラム期間

芸術地域デザイン学部は4年制の学部・学科である。修士課程は地域デザイン研究科への連続性を持っている。

(4) カリキュラム構成

カリキュラム構成は以下のとおり。

芸術地域デザイン学部カリキュラム理念



出典) 佐賀大学 WEB サイト

(<http://www.art.saga-u.ac.jp/curriculum/>)

芸術地域デザイン学部地域デザインコースカリキュラム

地域デザインコース

科目群・科目名		履修学年	
基礎科目	大学入門科目		
	外国語科目	英語	1年生
	専門/応用科目	情報基礎概論	1年生
	基本教養科目	自然科学と人間の分野	12年度
		文化の分野	12年度
		現代社会の分野	12年度
		インターフェース科目	23年度
		地域デザイン基礎(デザイン)	1年生
		地域デザイン基礎(マネジメント)	1年生
	地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1年生	
芸術表現基礎(絵画)	1年生		
芸術表現基礎(彫刻)	1年生		
芸術表現基礎(工芸)	1年生		
デザイン発想論	1年生		
デジタル表現基礎	1年生		
職業キャリア論	1年生		
英語論	1年生		
アートマーケティング	1年生		
創的創造論	2年生		
文化経済論	1年生		
アートマネジメント	1年生		
地域再生デザイン学	2年生		
比較オリエンタリズム研究	1年生		
Key Concepts in Art (キーコンセプトアート)	1年生		
アートと科学	23年度		
芸術文化・地域創生論	2年生		
〔国内外地域プロジェクト事例研究〕	2年生		
有田キャンパスプロジェクト	3年生		
地域創生フィールドワーク	3年生		
国内外芸術展覧	3年生		
博物館概論	1年生		
ランドスケープ	1年生		
地域再生論	2年生		
ヘリテージマネジメント論	2年生		
地域マネジメント論	3年生		
社会政策	2年生		
コミュニケーション	2年生		
芸術史基礎	1年生		
Intercultural Composition and Art (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート)	2年生		
地域情報マネジメント演習	2年生		
フィールドデザイン演習Ⅰ	2年生		
エリアスタディー演習Ⅰ	2年生		
経営・流通演習Ⅰ	2年生		
経営・流通演習Ⅱ	2年生		
コンテンツデザインⅠ	2年生		
複製伝達デザインⅠ	2年生		
映像デザインⅠ	2年生		
情報デザインⅠ	2年生		
キュレーション基礎	2年生		
博物館概論(博物館学Ⅱ)	2年生		
博物館資料論(博物館学Ⅲ)	2年生		
博物館展示論	2年生		
博物館資料保存論(芸術と倫理を含む)	2年生		
博物館情報・メディア論	2年生		
博物館教育論	2年生		
博物館学内実習	1年生		
博物館学外実習	3年生		
美術史Ⅰ	2年生		
美術史Ⅱ	2年生		
美術史Ⅲ	3年生		
美術史演習	2年生		
工芸概論	23年度		
キュレーター実務実践演習	2年生		
キュレーション応用Ⅰ	2年生		
キュレーション応用Ⅱ	2年生		
アートプロデュース論	2年生		
アートマネジメント特別講義	3年生		
アートプロデュース演習Ⅰ	2年生		
アートプロデュース演習Ⅱ	1年生		
考古学Ⅰ	2年生		
考古学Ⅱ	2年生		
考古学Ⅲ	2年生		
考古学演習Ⅰ(古代以前)	2年生		
考古学演習Ⅱ(中世・近世)	3年生		
考古学演習Ⅲ(現代)	2年生		
考古学実習Ⅱ(野外)	3年生		
コンテンツデザインⅡ	3年生		
コンテンツデザインⅢ	3年生		
映像デザインⅡ	3年生		
映像デザインⅢ	3年生		
情報デザインⅡ	3年生		
情報デザインⅢ	3年生		
デザインプロジェクト演習	2年生		
メディアプレゼンテーション	3年生		
デザイン実践セミナー	3年生		
コミュニケーションデザイン論	23年度		
コミュニケーションデザイン演習	23年度		
地域ブランディング論	23年度		
地域ブランディング演習	23年度		
メディアアート論	23年度		
メディアアート演習	23年度		


	地域史論Ⅰ	2年生
	地域史論Ⅱ	2年生
	地域史論Ⅲ	3年生
	アーカイブズ論	2年生
	陶磁史	2年生
	地域史演習	3年生
	古文書解読演習	3年生
	風土と地理学	1年生
	地域調査分析	3年生
	都市空間論Ⅰ	2年生
	都市空間論Ⅱ	3年生
	フィールドワーク実習	2年生
	都市・地域空間史	2年生
	フィールドデザイン演習Ⅰ	3年生
	文化財の保存と活用	2年生
	ヘリテージマネジメント演習	2年生
	地域資源論	3年生
	博物館の政治学	3年生
	エリアスタディ演習Ⅰ	3年生
	美術品流通論	2年生
	ミュージアム・マーケティング	3年生
	地域雇用政策論	3年生
	経営・流通演習Ⅰ	3年生
	経営・流通演習Ⅱ	3年生
	Critical Studies in Language and Image Ⅰ(クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅰ)	2年生
	Critical Studies in Language and Image Ⅱ(クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅱ)	3年生
	Critical Studies in Language and Image Ⅲ(クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅲ)	3年生
	Intercultural Communication and Art Ⅱ(インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅡ)	3年生
	Intercultural Communication and Art Ⅲ(インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅢ)	3年生
	Art in Context (アート・イン・コンテクスト)	3年生
総合連携科目	本表のほか、本学部及び他学部の専門教育科目並びに教養教育科目の基本教養科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。	
	卒業研究	4年生

出典) 佐賀大学 WEB サイト (<http://www.art.saga-u.ac.jp/curriculum/>)

13.3. カリキュラムの特徴

(1) 地域行政・企業等と連携した実践的教育

芸術地域デザイン学部では、地域性を活用した授業を展開している。

講義名	概要
地域デザイン基礎 (フィールドワーク)	地域の文化・歴史資源を把握し、潜在的な魅力や見落としがちな特長を探索し、「佐賀の魅力が感じられるまち歩きコースの提案」や「まち歩きマップ」を立案する。 (学部共通科目)
有田キャンパスプロジェクト	有田キャンパスでサイズの大きな作品制作に取り組む。出来上がった作品は有田町内で発表を行う。(学部共通科目)
	
地域創生フィールドワーク	学生がチームを組み、地域の地理や文化・芸術資源を継続的に調査し、フィールドワークを行う。地域の協力を得て、地域資源を活かした企画を地域の中に入って展開する。活動を情報発信する手法も学ぶ。本授業を通して、地域創生のために必要な実践的な能力を修得する。(学部共通科目)
	
フィールドデザイン演習	(地域デザインコース基礎科目)
エリアスタディー演習	(地域デザインコース基礎科目)
デザインプロジェクト演習	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)
メディアプレゼンテーション	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)

ヨン	
デザイン実践セミナー	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)
地域ブランディング演習	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)

(2) クールジャパン推進に資する学問的教育

芸術地域デザイン学部では、佐賀県内の地域を題材にして、芸術・デザインを学ぶための学問的授業を展開している。

講義名	概要
地域デザイン基礎 (デザイン)	(学部共通科目)
地域デザイン基礎 (マネジメント)	(学部共通科目)
地域再生デザイン学	(学部共通科目)
芸術文化・地域創生論	国内外の地域プロジェクト事例研究を行う。(学部共通科目)
地域再生論	(地域デザインコース基礎科目)
地域マネジメント論	(地域デザインコース基礎科目)
社会政策	(地域デザインコース基礎科目)
コミュニティビジネス	(地域デザインコース基礎科目)
コンテンツデザイン	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)
映像デザイン	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)
情報デザイン	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)
コミュニケーションデザイン論	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)
地域ブランディング論	(地域コンテンツデザイン分野選択科目)

(3) 海外に通じるデザイン・文化理解等の実践的教育

講義名	概要
国内外芸術研修	国内外で、芸術作品を生み出した歴史について学修し、歴史的遺物を生み出した環境に触れ、芸術の歴史や作品についての理解を深める。



【参考文献】

Y 佐賀大学芸術地域デザイン学部 WEB サイト <http://www.art.saga-u.ac.jp/>